

上郡町内で標識されたアサギマダラを再捕獲

清水哲哉・河村幸子

筆者らは、アサギマダラ (*Parantica sita*) の観察のため訪れた上郡町のフジバカマの花壇において、訪花していた3頭のうちの1頭に標識があるのを確認し、撮影(写真)、再捕獲したので報告する。



再捕獲情報

標識: XX1632 水 9/24

性別: ♂

再捕獲日等: 2014/10/18, 12:20

再捕獲場所: 兵庫県赤穂郡上郡町金出地付近 町会所 (町会名は未確認)

N34° 54' 32", E134° 24' 28"

再捕獲者: 清水哲哉, 河村幸子

備考: フジバカマ吸蜜, 「KANA 10/18 TS1」を追記放蝶

標識内容を宮武頼夫先生に照会した結果、9月24日に京都市右京区嵯峨水尾で金田忍氏が標識したものと推定された。情報をいただきました宮武先生に、紙面を借りて感謝を申し上げます。

(Tetsuya SHIMIZU 岡山市北区)
(Sachiko KAWAMURA 神戸市北区)

秋に観察されたテングチョウの集団

清水哲哉・河村幸子

テングチョウ (*Libythea celtis*) は、年1化で初夏に誕生した成虫は短期間活動したのち盛夏は休眠し、秋に再び活動したのち再び休眠し、冬を越した翌年の春に産卵するという生活環を持っている。

2014年には、関西から中国、四国地方にかけてテングチョウの大発生があり、成虫発生直後の初夏に各地で大集団が観察された。それらの大集団の情報は、近藤伸一氏によりまとめられ、「きべりはむし第37巻第1号」(2014)で発表されている。

筆者らは、夏の休眠後の秋に、集団化したテングチョウを観察したので、報告する。

2014年10月18日の昼ごろ、兵庫県赤穂郡上郡町金出地にある町会所(町会名は未確認)のフジバカマの花壇(約12×2m)に、アサギマダラの観察に訪れた際、多数のテングチョウがフジバカマで吸蜜、その周辺を乱舞しているのを発見した。詳しい観察は行わなかったが、花壇全体で100頭は優に超えると思われる高密度の集団であった。この花壇は、鞍居川沿いに広がる谷間の平地にあって、テングチョウの発生地と思われる山林からは、田んぼ、住宅、川などを挟んで100m以上は離れている。

筆者(清水)は、このテングチョウの集団をより詳しく観察しようと、10月24日に花壇を再訪したが、驚くべきことにテングチョウは1頭も見られなかった。また、集団が観察した時より前の10月11日にも、アサギマダラの採集のため花壇を訪れているが、その時、テングチョウを観察したか否か記憶に無く、少なくとも印象に残るような集団はなかった。このことから、テングチョウが、何らかの要因で短い期間に集中して、花壇に吸蜜に訪れたことがわかる。3回の訪問は、いずれも快晴の昼間で、フジバカマの開花状況にも違いは感じられなかった。テングチョウ以外の蝶については、移動性のアサギマダラが漸減(10頭→3頭→1頭)していった他は、キチョウ、ツマグロヒョウモン、キタテハ、ヒメアカタテハ、ベニシジミ等が0~2頭程度見られた程度で大きな変化は見られなかった。

(Tetsuya SHIMIZU 岡山市北区)
(Sachiko KAWAMURA 神戸市北区)